

確かな学力をもつ、心身ともに健康な生徒の育成

## 折り返し地点通過！

(終業式で話した内容も含まれます。)

約 100 日間の前期が終わりました。皆さんにとってどんな 100 日間だったでしょうか。前期の終りと月曜日からの後期の始まりに向けて、2 つ話をします。

- 1 学習と生活を振り返り、自分の良かったところ、悪かったところを考える。
- 2 「これから何をがんばっていくのか」を考える。

今日は担任の先生から、通知表をもらいました。通知表は、学校（担任）と家庭（生徒・保護者）とを結ぶ大切なものです。皆さんは、自分自身が行ってきたことにどんな評価が出ているのかをドキドキしながら受け取ったことでしょうか。保護者の皆様にとっても、我が子が学校でどのように学習に取り組み、どのように生活を送っているのかを知る資料として、生徒たちと同様、緊張感をもって目を通すものになります。担任の先生も、前期の皆さんの部活動や表彰の結果をていねいに記録し、夜遅くまでかかり、一人一人の通知表を作成しました。各教科については、通知表と前期中間テストの前に配付した、「平成28年度 学習案内（指導と評価の年間計画表）」を合わせて見てください。たとえば国語を例に挙げると、通知表には観点にはA～Cまでであり、それによって評定が1～5まで決まります。（下表1参照）

表1 通知表 【観点別評価と評定】

【必修教科】

評価・・・A:十分満足できる B:概ね満足できる C:努力を要する  
評定・・・5段階

教科	観 点	前 期	
		評価	評定
国語	国語への関心・意欲・態度		
	話す・聞く能力		
	書く能力		
	読む能力		
	言語についての知識・理解・技能		

そこで、この「学習案内」の国語のところを見れば、具体的な「観点」と、「評価」の場面・方法が詳しく載っています。（下表2参照）観点のAや評価の3などの数字の中に、教科の先生たちがそこまでの評価に至る過程で、膨大な評価材料を細かく分析し、後期に活かしてほしい気持ちを込めた、苦労の跡が見えるかもしれません。

表2「国語の学習案内」から

	観 点	評価の場面・方法
国語への関心・意欲・態度	国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、国語に対する認識を深め、話したり聞いたり書いたりして考えをまとめ、読書を通してものの見方や考え方を広げようとする。	・授業への取り組み方 ・テスト ・提出物
話す・聞く能力	目的や場面に応じ、構成を工夫して話したり、意図を考えながら聞いたり話題や方向をとらえたりして話し合ったりしている。	・発表 ・スピーチ ・授業への取り組み方 ・テスト
書く能力	目的や意図に応じ、構成を考え、自分の考えや気持ちを根拠を明確にして文章に書いている。	・作文 ・ノートの記述内容 ・テスト
読む能力	目的や意図に応じ、様々な本や文章を読み、内容や要旨を的確にとらえて、自分のものの見方や考え方を広くしている。	・発表の内容・ノートの記述内容 ・作文 ・テスト
言語についての知識・理解・技能	伝統的な言語文化に触れたり、言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し使ったりするとともに、文字を楷書で書き、漢字の行書の基礎的な書き方を理解して書いている。	・発表 ・作文 ・書写 ・テスト

# 英語弁論大会 大健闘！

10月8日（土）、高円宮杯第68回全日本中学校英語弁論大会三重県大会が三重県総合教育センターにて行われました。暗唱の部と弁論の部に分かれて、県下の英語の得意な中学生が集まりました。

暗唱の部は3年生の中井星来さんが、英語の教科書に載っている「The Story of Sadako 禎子の物語」を暗唱しました。この教材は、広島で被爆した禎子さんが病院で折り鶴を千羽折ったら体調が良くなると信じて折り続けましたが、12歳で生涯を終えた物語です。中井さんは一度も詰まることなく、情感たっぷりに暗唱しました。

弁論の部は、3年生の早川恭平さんと奥野楓子さんが出場しました。早川さんは「The Japan Relay Team: I'm Inspired to Aspire 僕の金メダル」というテーマで、「リオオリンピックでの陸上競技で男子リレーチームが銀メダルをとったことは思ってもみませんでした。なぜなら、外国の選手は日本選手よりも大きいし、速いので。外国からは、日本の選手が勝つことは不可能と言われていましたが、日本チームがバトンパスの技術を研究したので、外国のチームの技術を超えることができました。彼らの成功に勇気づけられ、今度の県大会に向けて、私も努力しています。」と大会のトップバッターで緊張する場面ですが、見事堂々とスピーチできました。すでに日本チームの活躍が早川さんに効果をもたらしたようでした。

奥野さんは「To Live Peacefully Now and Beyond 今と未来の平和」というテーマで、「今年の夏休みに井伏鱒二の『黒い雨』を読み、平凡な生活がいかに大切かを教えられました。もちろん私もまだ生まれていないし、祖父も1歳か2歳くらいで覚えていません。私の中学校では、平和教育を続けています。DVDを見たり、本を読んだりします。私は広島に行ったことがありませんが、ぜひ行ってみたい場所です。私は『黒い雨』を読むのをやめたくなくなりましたが、なんとか読み終わりました。再び戦争を起こさぬよう、戦争の恐ろしさを知らない人たちに伝え、核戦争がない世界の実現に立ち上がりたくです。」と力強く、堂々とスピーチしました。

惜しくも賞は逃しましたが、3名ともとても素晴らしいスピーチでした。講評では「スピーチは内容に応じて速く話したり、ゆっくり話したり、声の大小に変化を付けたり、適切な間をとることによって、聞く人の関心をひきつけることが大切で、これは普段日本語で話すときにも共通すること。英語の上達の秘訣はできるだけひとまとまりの文章を覚えること。」と話されました。皆さんにも十分参考になりそうな内容でした。

